

# 2023年度 経営計画

2023年4月27日  
富士電機株式会社

1.	2023年度 経営課題	P.	3
2.	2023年度 経営計画(対前年)	P.	4
3.	補足資料	P.	18

## 1. 現中期経営計画で見えてきた課題

- 収益力の更なる向上
- 海外事業の拡大

## 2. 次期中期経営計画の策定

# 2. 2023年度 経営計画 (対前年)

# 通期 連結業績概要 (対前年)

売上高、営業利益、純利益は前年に引き続き過去最高を計画

(単位: 億円)	2022年度 実績	2023年度 経営計画	増減	(参考) 2023年度 中期経営計画
売上高	10,094	10,500	-127* 406	10,000
営業利益	889	940	-54* 51	800
営業利益率	8.8%	9.0%	0.2%	8.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	613	625	12	550

## 【財務指標】

\*為替影響

ネットD/Eレシオ※	0.2 倍	0.1 倍	- 0.1 倍	0.1 倍
自己資本比率	43.8 %	47.4 %	3.6 %	50.0 %
ROA(総資産利益率)	5 %	5 %	—	5 %
ROE(自己資本利益率)	12 %	12%	—	11 %

※ ネット有利子負債 ÷ 自己資本

	US\$	EURO	RMB
2023年度為替レート	¥125.00	¥135.00	¥18.50
営業利益における 為替感応度(億円)※	+ 0.6	+ 1.4	+ 2.9

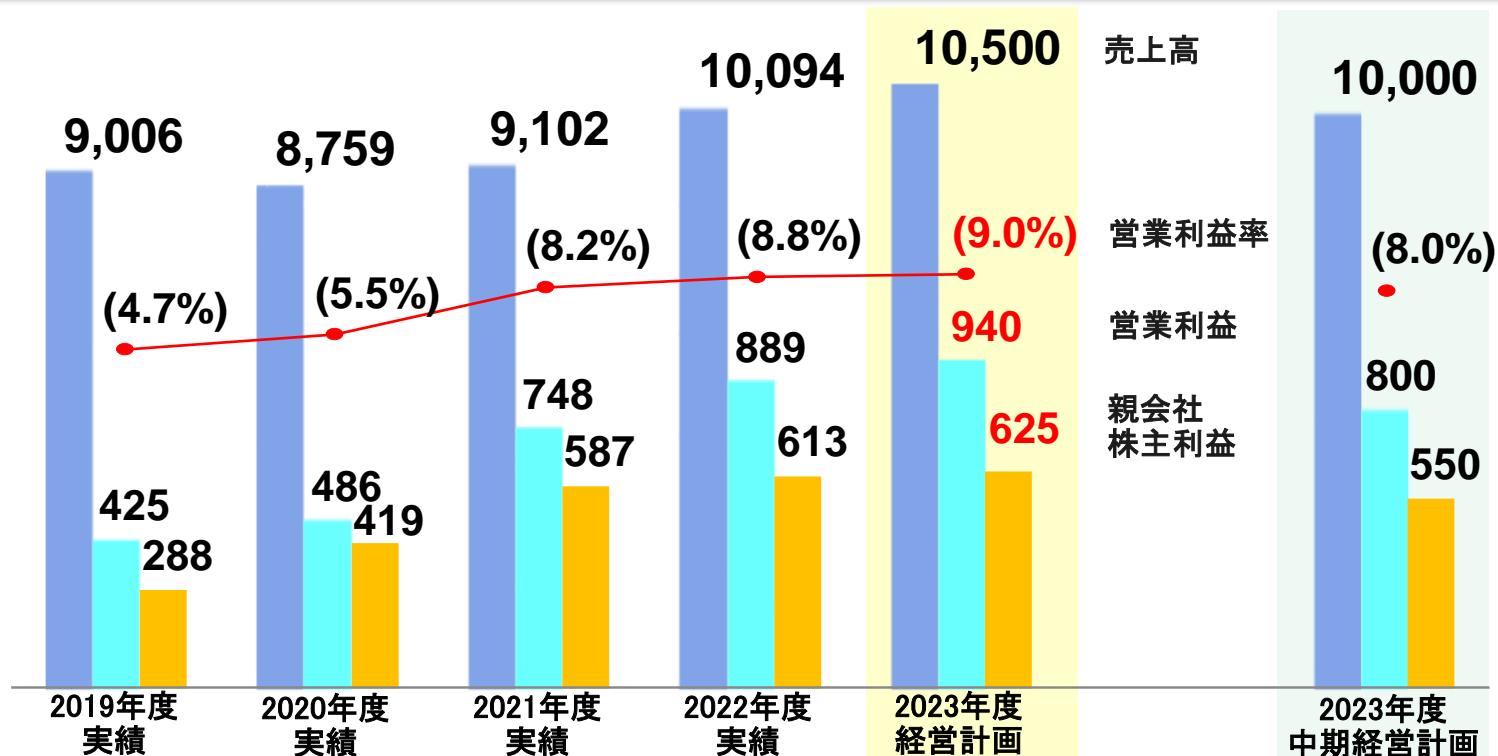
※ US\$, EUROは1円変動影響、RMBは1%変動影響

※ 2023年度中期経営計画策定時の前提為替レート: 105円/US\$, 123円/EURO、16円/RMB

# 業績・主要指標の推移

## 2023年度からは利益重視の経営

(単位:億円)



自己資本比率

37%      40%      42%      44%      47%      50%

ROE

8%      11%      13%      12%      12%      11%

ROA

3%      4%      5%      5%      5%      5%

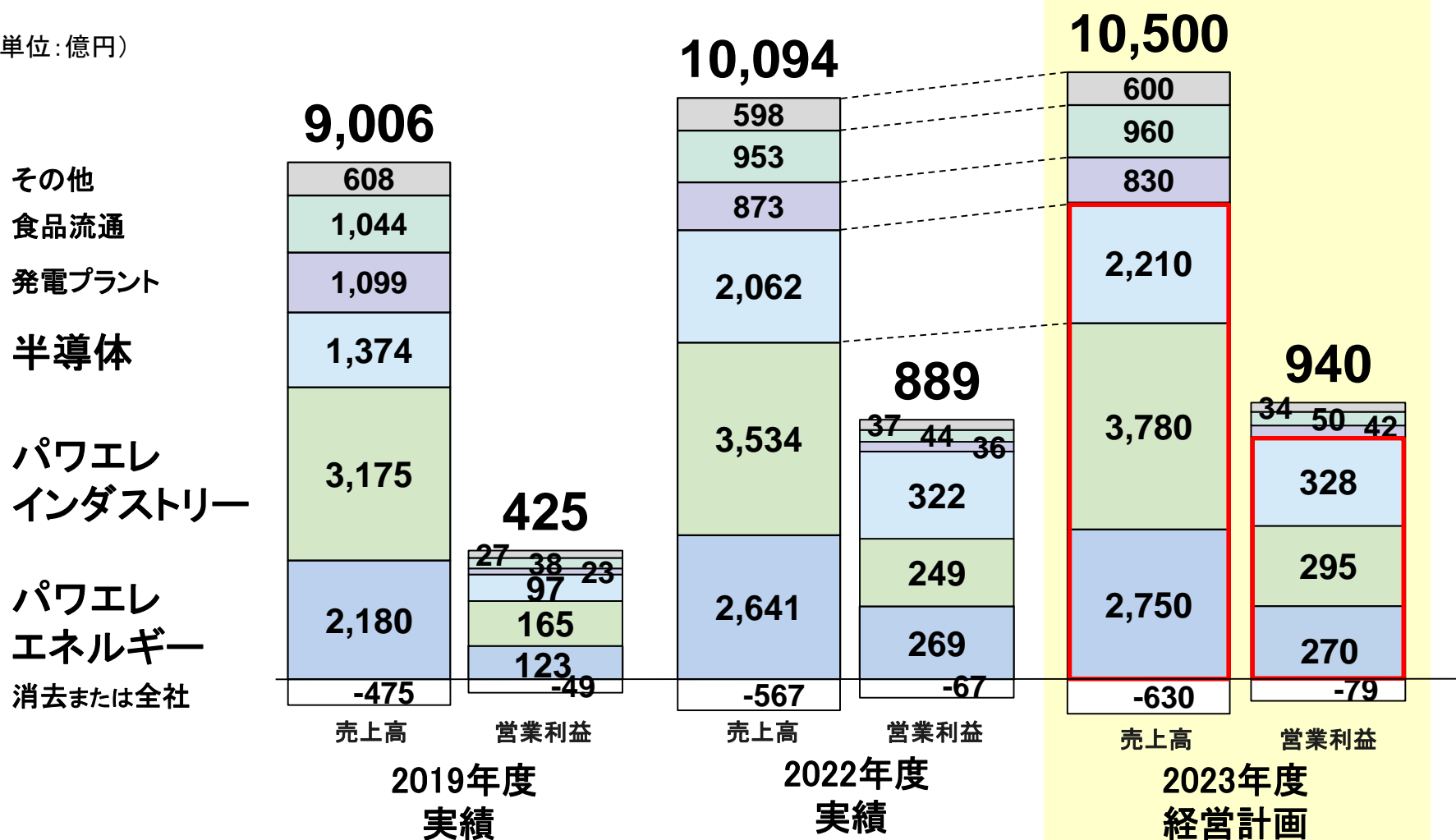
ネットD/ELシオ

0.4倍      0.3倍      0.2倍      0.2倍      0.1倍      0.1倍

# セグメント別業績推移

成長分野と位置付けるパワエレ・半導体が業績を牽引

(単位:億円)

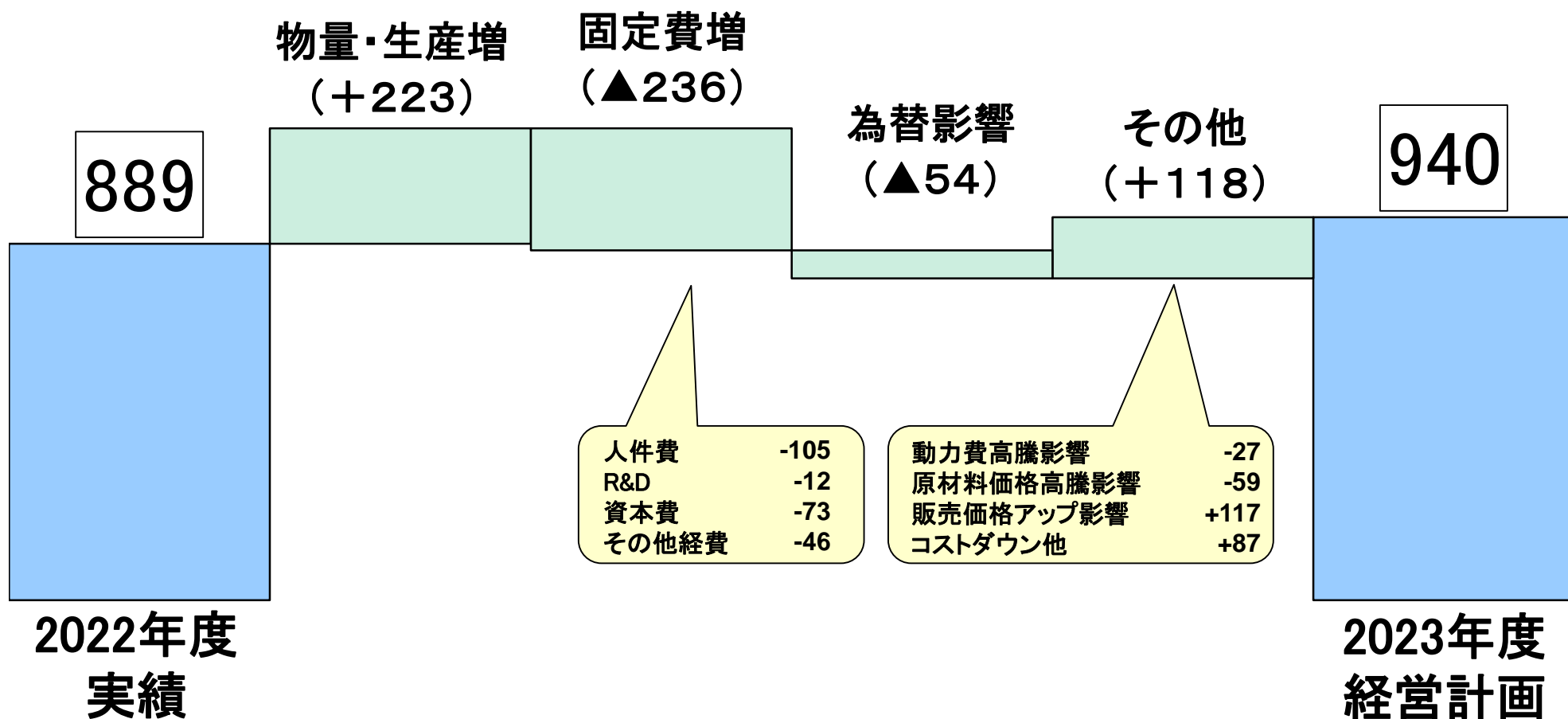


※2019年度実績は、2022年度の事業組替前の数値を表示しています。

# 通期 営業損益増減分析 (対前年)

動力費や原材料価格の高騰、固定費増、為替による悪化影響があるものの  
物量・生産増や販売価格アップ、コストダウン等により増益

(単位:億円)





# 通期 セグメント別売上高・営業利益 (対前年)

## 全セグメントで対前年増益を計画

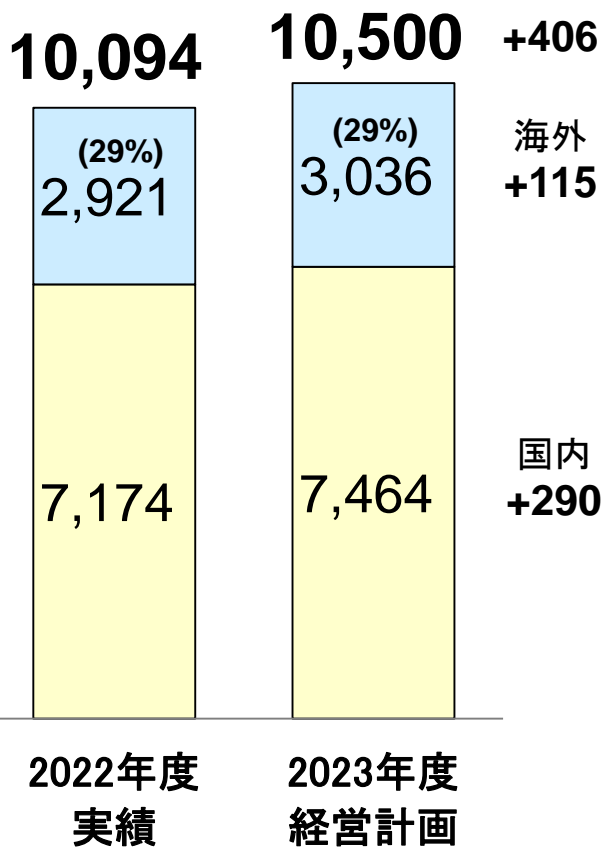
(単位:億円)	2022年度 実績			2023年度 経営計画			増減		
	売上高	営業 利益	営業 利益率	売上高	営業 利益	営業 利益率	売上高	営業 利益	営業 利益率
パワエレ エネルギー	2,641	269	10.2%	2,750	270	9.8%	-22* 109	-6* 1	-0.4%
パワエレ インダストリー	3,534	249	7.0%	3,780	295	7.8%	-43* 246	-14* 46	0.8%
半導体	2,062	322	15.6%	2,210	328	14.8%	-55* 148	-35* 6	-0.8%
発電プラント	873	36	4.1%	830	42	5.1%	-43	6	1.0%
食品流通	953	44	4.6%	960	50	5.2%	7	6	0.6%
その他	598	37	6.3%	600	34	5.7%	2	-3	-0.6%
消去または全社	-567	-67	-	-630	-79	-	-63	-12	-
合計	10,094	889	8.8%	10,500	940	9.0%	-127* 406	-54* 51	0.1%

\*為替影響

# 通期 国内/海外・地域別売上高 (対前年)

## アジア・米州のプラント・システム案件が増加

(単位:億円)  
( )内は海外売上高比率



(単位:億円)

	2022年度実績	2023年度経営計画	増減
海外	2,921	3,036	+115
アジア他	1,452	1,450	-2
中国	894	928	+35
欧州	331	344	+13
米州	243	314	+71
国内	7,174	7,464	+290

\*為替影響

エネルギーマネジメント +30  
施設・電源システム +58  
器具 -19  
オートメーション +14  
半導体 -30  
発電プラント -68

オートメーション +7  
半導体 +16

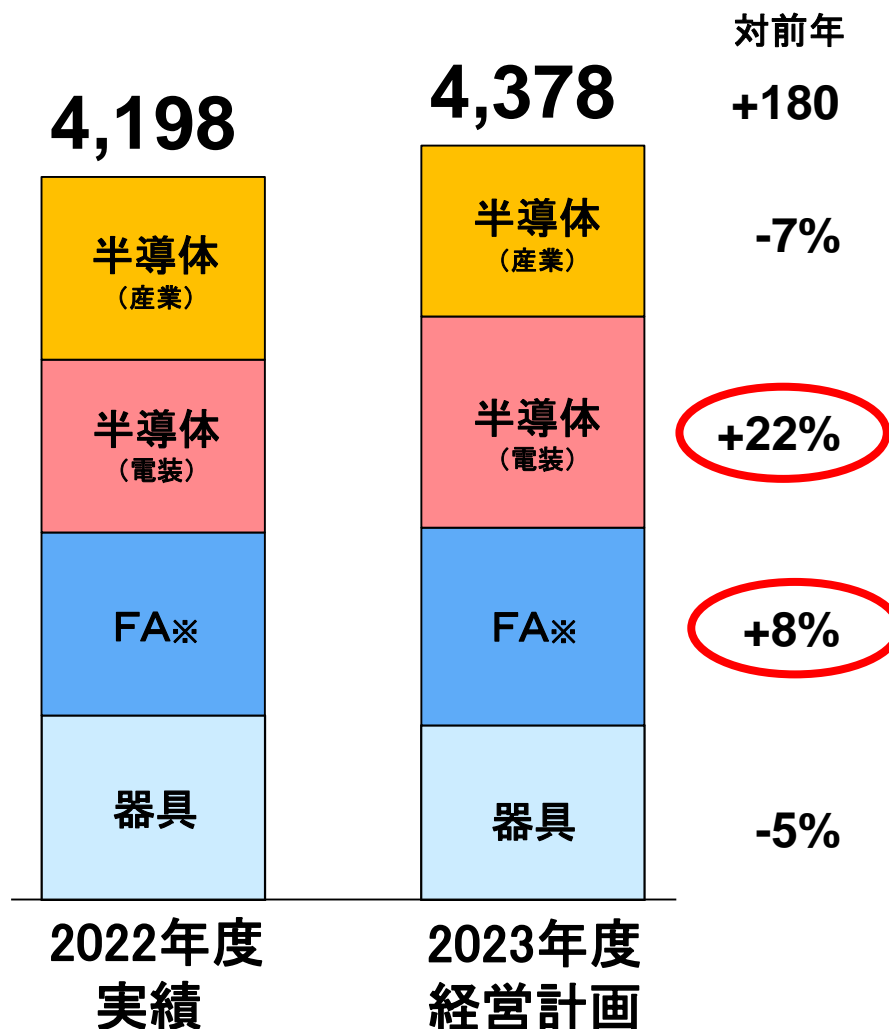
施設・電源システム -8  
オートメーション +10  
半導体 +10

エネルギーマネジメント +27  
施設・電源システム +25  
器具 -8  
社会ソリューション +9  
発電プラント +15

# 通期 主要コンポーネント売上高 (対前年)

半導体は電装向けが牽引  
パワエレFAは、高水準の受注残により増収

(単位: 億円)

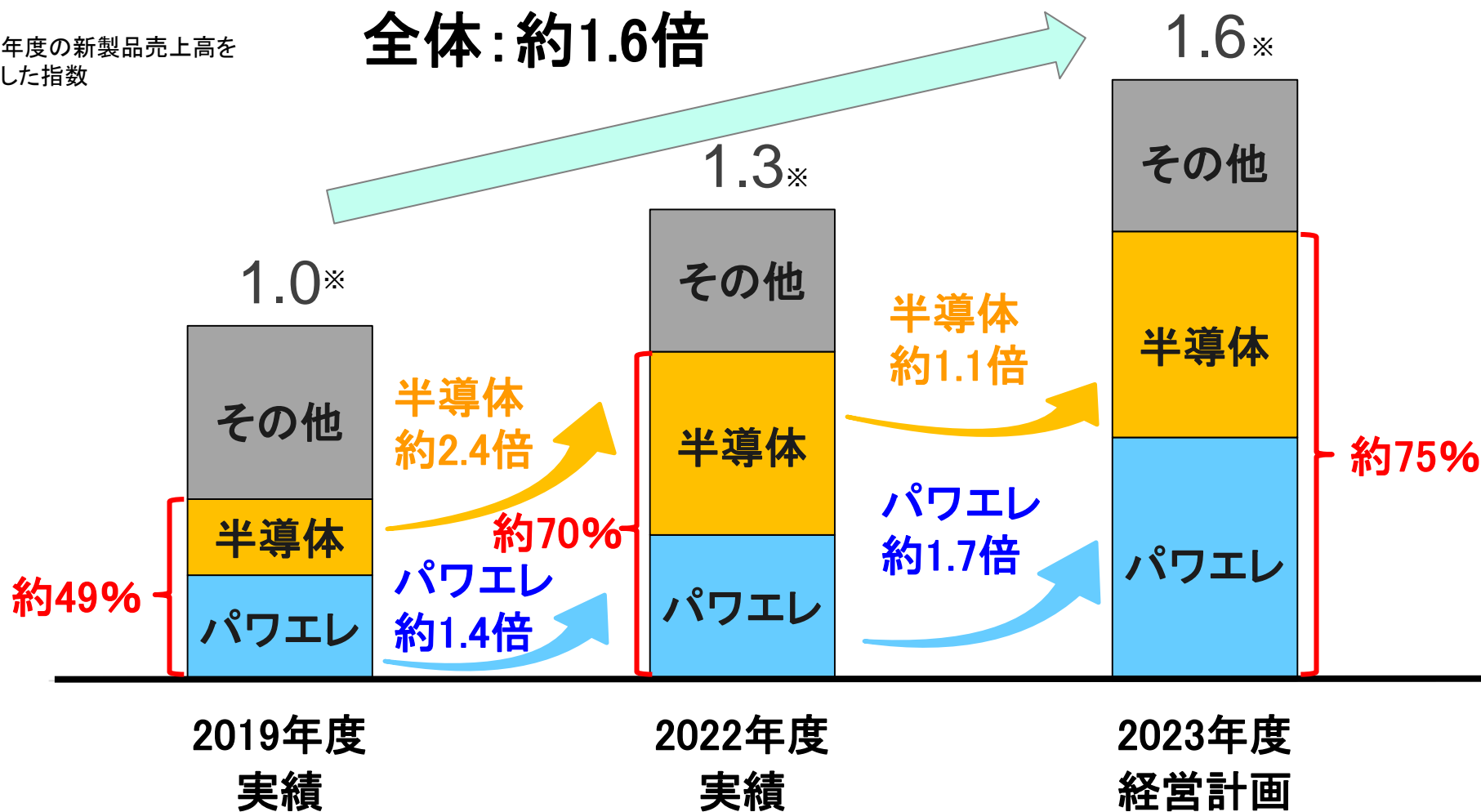


※FA: 低圧インバータ、回転機、FAコンポーネント、計測機器

# 新製品投入による売上貢献

新製品の投入によりパワーエレ・半導体の売上が拡大

※ 2019年度の新製品売上高を  
1.0とした指数

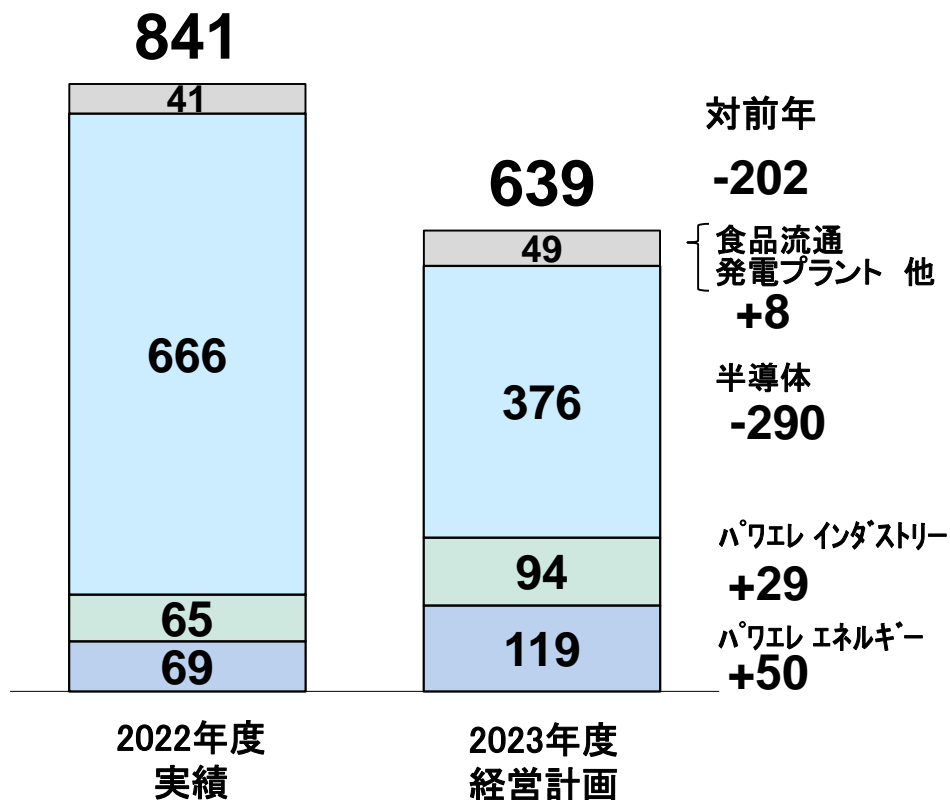


19~23年度に上市した新製品が対象(新製品定義: 上市後5年以内)

# 通期 設備投資 (対前年)

## パワエレ、パワー半導体の生産能力増強投資を継続

(単位:億円)



### <2023年度の主な投資内容>

半導体

- ・前工程(SiC、Si 8インチ)生産能力増強
- ・後工程(自動車向けモジュール)生産能力増強

パワエレ

インダストリー

- ・海外工場の内製化拡大
- ・国内工場の生産能力増強

パワエレ

エネルギー

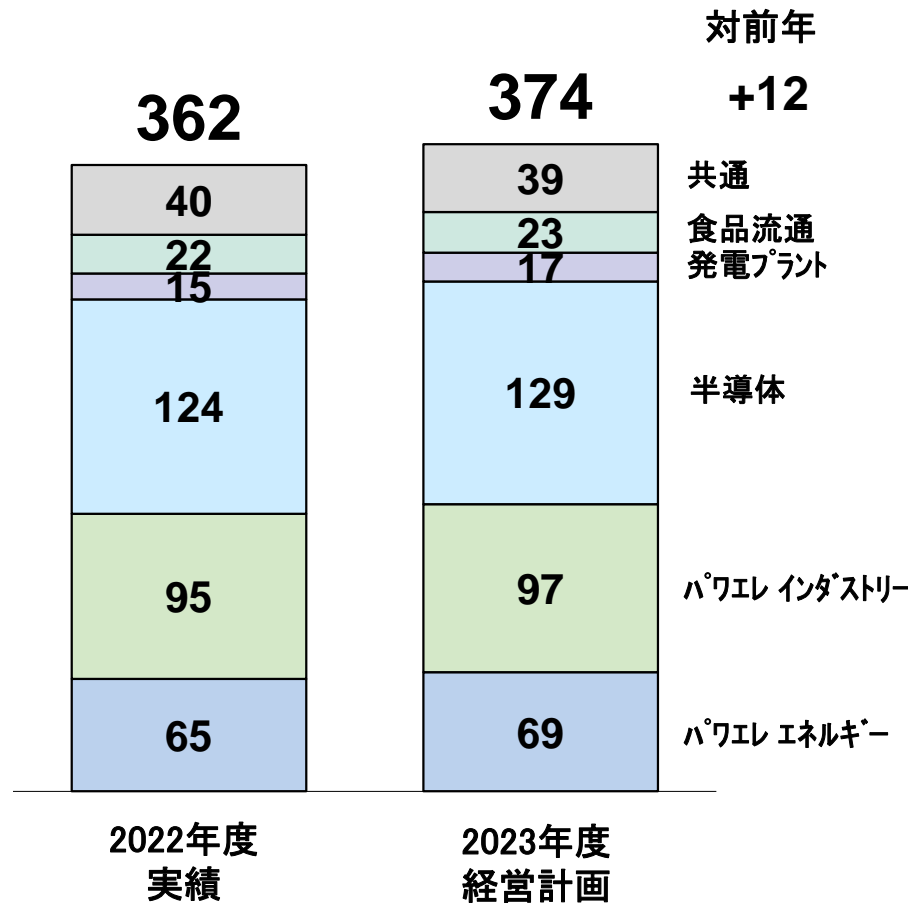
- ・開発試験設備の導入
- ・器具の新製品生産設備の導入

# 通期 研究開発 (対前年)

パワエレ、パワー半導体への積極的な開発投資を継続  
中長期的な成長に向けた新製品開発を加速

## <2023年度の主な開発テーマ>

(単位:億円)



- 食品流通**
  - ・「省エネ」「高付加価値商材」
  - ・新市場/新分野向け新商材
- 発電プラント**
  - ・再エネ/分散型電源向け新商材
  - ・サービス関連新商材
- 半導体**
  - ・自動車向けSiC/IGBTモジュール
  - ・産業向け大容量IGBTモジュール
  - ・第8世代IGBTおよび第3世代SiC
- パワエレ インダストリー**
  - ・プラットフォーム適用開発推進
  - ・プラント向けグローバル商材
  - ・モビリティ分野向け商材
  - ・DX商材
- パワエレ エネルギー**
  - ・グローバル商材(変圧器、モルトラ、GIS、電機盤)
  - ・カーボンニュートラル・環境貢献対応商材(蓄電池システム、EMS)
  - ・大容量UPS系列拡大

※研究開発費はテーマに応じてセグメントに分類したもので、決算短信記載の数値とは異なります。

# 年度末 連結貸借対照表 (対前年)

成長投資を継続しつつ、財務体質を改善  
 現預金と有利子負債の圧縮でバランスシートをスリム化

(単位: 億円)

資産の部	23/3/31	24/3/31	増減
現金及び預金	847	450	-397
売上債権	3,885	3,944	59
棚卸資産	1,987	2,070	83
その他	417	438	21
流動資産 計	7,136	6,902	-234
有形固定資産	2,839	2,985	146
無形固定資産	240	241	1
投資その他の資産	1,600	1,508	-92
固定資産 計	4,679	4,734	55
繰延資産	1	0	-0
資産 合計	11,816	11,636	-179
ネット有利子負債※1	991	779	-212
ネットD/Eレシオ※2	0.2倍	0.1倍	-0.1倍
自己資本比率	43.8%	47.4%	3.6%

負債、純資産の部	23/3/31	24/3/31	増減
買入債務	2,016	2,097	81
有利子負債	1,833	1,223	-610
その他負債	2,246	2,235	-11
負債 合計	6,095	5,555	-540
資本金	476	476	-
資本剰余金	460	460	-
利益剰余金	3,649	4,103	454
自己株式	-74	-74	-
株主資本	4,511	4,965	454
その他の包括利益累計額	660	547	-113
非支配株主持分	550	570	20
純資産 合計	5,721	6,081	361
負債・純資産 合計	11,816	11,636	-179

※1 ネット有利子負債：有利子負債-現金及び現金同等物

※2 ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

# 通期 キャッシュ・フロー計算書 (対前年)

成長投資は営業活動によるキャッシュフローでカバー  
FCFと現預金を活用して有利子負債を削減

(単位: 億円)

	2022年度 実績	2023年度 経営計画
I 営業活動によるキャッシュフロー	1,162	1,100
II 投資活動によるキャッシュフロー	-495	-650
I + II フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	667	450
III 財務活動によるキャッシュフロー	-772	-825
IV 現金及び現金同等物の期末残高	842	444



## 2024年度以降の成長戦略策定

- 2030年の富士電機のあるべき姿・ありたい姿
- エネルギー・環境事業の成長戦略
- 利益重視の経営

# 3. 補足資料

# 通期 セグメント別概況①(対前年)

(単位:億円)

※( )内は営業利益率

		2022年度 実績	2023年度 経営計画	増減	概況
パワエレ エネルギー	売上高	2,641	2,750	-22* 109	器具の需要減少による悪化影響があるものの、好調なプラント・システム案件でカバーし増収増益
	営業利益	269 (10.2%)	270 (9.8%)	-6* 1 (-0.4%)	
パワエレ インダストリー	売上高	3,534	3,780	-43* 246	オートメーションにおける高水準の受注残およびITソリューションの需要増を主因に増収増益
	営業利益	249 (7.0%)	295 (7.8%)	-14* 46 (0.8%)	
半導体	売上高	2,062	2,210	-55* 148	固定費増や為替による悪化影響があるものの、自動車の電動化を背景としたxEV向けパワー半導体の需要増を主因に増収増益
	営業利益	322 (15.6%)	328 (14.8%)	-35* 6 (-0.8%)	

\*為替影響

# 通期 セグメント別概況②(対前年)

(単位:億円)

※( )内は営業利益率

		2022年度 実績	2023年度 経営計画	増減	概況
発電プラント	売上高	873	830	-43	前年の大口案件の減少により減収も 案件差等により増益
	営業利益	36 (4.1%)	42 (5.1%)	6 (1.0%)	
食品流通	売上高	953	960	7	中国マーケットの低迷等による影響を 保守的にリスクとして織り込むも、 高付加価値商材の売上拡大を主因に 増収増益
	営業利益	44 (4.6%)	50 (5.2%)	6 (0.6%)	
その他	売上高	598	600	2	
	営業利益	37 (6.3%)	34 (5.7%)	-3 (-0.6%)	
消去または全社	売上高	-567	-630	-63	
	営業利益	-67	-79	-12	

# 上期 連結業績概要 (対前年)

(単位: 億円)

	2022年度 実績	2023年度 経営計画	増減	
売上高	4,471	4,660	-105*	189
営業損益 (営業利益率)	267 (6.0%)	282 (6.1%)	-30*	15 (0.1%)
経常損益	289	255		-34
親会社株主に帰属する 当期純損益	203	175		-28

\*為替影響

(単位: 億円)

	2022年度 実績		2023年度 経営計画		増減			
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
パワーエ ネルギー	1,156	96	1,240	84	-18*	84	-3*	-12
パワーエ レクトロニクス	1,502	11	1,590	26	-36*	88	-6*	15
半導体	970	149	1,050	150	-45*	80	-22*	1
発電プラント	348	-5	300	8		-48		13
食品流通	448	32	480	38		32		6
その他	286	15	290	14		4		-1
消去または全社	-239	-32	-290	-38		-51		-6
合計	4,471	267	4,660	282	-105*	189	-30*	15

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。